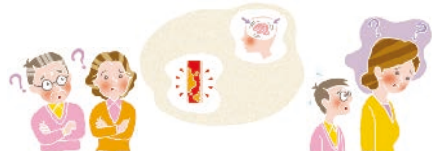


まわりの人が認知症についての理解を深めることが大切です。



認知症はどのような病気なの？

- 認知症と、年相応のものの忘れとは別のもです。
- 認知症は、脳の神経細胞が壊されていくために起こります。
- 高齢者だけでなく、原因によっては、若い世代にも起こりうる病気です。



認知症の症状は？

認知機能障害

- **記憶障害**
本人が最も自覚しやすく、家族も気づきやすい症状です。初期には、覚えられないという訴えが目立ちます。
- **実行機能障害**
「何かをしようと思う」「計画を立てる」「順序立てて行う」「やり続けて、やり遂げる」など、新たな課題を実行に移す時に必要な能力が失われます。
- **見当識障害**
時間、場所、人物の見当をつけ、自分の状況を理解する能力が障害されます。
- **失行**
運動機能に麻痺などの障害がないにもかかわらず、以前はできていた「目的をやり遂げるための動作」ができない状態を言います。
- **失認**
視力に異常がないのに、対象物を認識したり区別したりできなくなることで、人の顔が認識できないことなどを言います。
- **失語**
認知症の初期に見られる失語は、スムーズに物の名前が出てこないため代名詞が多くなることで、会話がまどろっこしくなります。



行動・心理症状

行動・心理症状(BPSD)とは、認知機能障害を背景に、周囲の状況(関わり方、環境の変化など)に対する事実認識、勘違い、判断違い、身体の状態(感染、脱水、便秘など)や心理症状などによって現れる徘徊や興奮などの行動障害、幻覚や妄想などの心理症状のことです。認知機能障害の改善は困難ですが、行動・心理症状は、接し方やまわりの環境を整えることによってある程度改善したり、予防したりすることができます。



認知症の主な病気と症状は？

認知症の原因はひとつではありません。病気の種類によって、出てくる症状にもかなり違いがあります。それぞれに、どのような症状が現れるのか、原因となる病気によって治療や介護の方法も変わってきますので、それを知っておくことは大切です。

主な4つの認知症について解説します。

- **アルツハイマー型認知症**
記憶障害を中心とした認知症で、徐々に進行します。もの忘れや、できていたことがうまくできなくなる実行機能障害、時間の感覚がわからないといった症状がだんだんと目立つようになります。
- **脳血管性認知症**
脳梗塞や脳出血によって起こる認知症の総称です。神経細胞が広い範囲で壊されるアルツハイマー型認知症と異なり、障害された部分とまったく正常な部分が混在し、できないことと驚くほどできることがあります。症状は記憶障害以外に、無気力、無関心、感情の不安定さなどが目立ちます。
- **レビー小体型認知症**
動作が緩慢になる、小股で歩く、顔の表情が乏しくなるなどのパーキンソン病のような症状と、幻視や症状の変動が目立つことが特徴の認知症です。最近、診断方法の進歩によって、比較的多い病気であることがわかってきました。
- **前頭側頭型認知症**
初期には、もの忘れよりも人格の変化が目立ちます。例えば、会社で仕事ができるくらいの知的能力があるにもかかわらず、周囲の人に対する配慮に欠けたり、はぐらかすような行動があったりします。また、特徴的な症状として、同じ行動を繰り返すという常同行動があります。

まわりの人が
認知症の正しい
理解を深める
ことが大切です。



認知症の治療は？

認知症の治療は大きく分けて二つあります。「薬による治療」と「薬を使わない治療」です。これらを組み合わせることで、認知機能障害の進行を遅らせるとともに、行動・心理症状をできるだけ予防します。



薬による治療

認知症を完全に治す薬はまだ開発されていませんが、研究は日々進んでいます。病気の種類、個々の症状に合わせて薬をうまく使うことで、本人の生活能力を長く維持することができるほか、介護する人の負担軽減、介護費用の低減にもつながります。

薬を使わない治療

その人が持っている機能を通じて働きかけることにより、認知機能の低下や身体機能の低下を防いだり、精神的にも安定することをめざします。本人に安心がもたらされるので、行動・心理症状を防ぐことができたり、認知機能障害にも有効に働きます。

本人や家族のことは



理解して本人や家族を支えよう



Aさん(本人) 職場の理解を得ながら、できるところまで仕事を続けたい

受診のきっかけになったのは仕事上のトラブルが増えたからです、それでもできるまで仕事は頑張りたいと思います。
受診を勧められた時は正直なところとも落ち込みましたが、今は、病気とわかり、正直に話し合いながら仕事の負担軽減も考えてもらって続けています。定年までを目標に、迷惑をかけないところまでやっていきたいと思っています。



Bさん(本人) 怖がらず、早く専門医の診断を受けて！

仲よくしていた友人が受診を勧めてくれました。同じことを尋ねる私をみて、今までと違うと感じていたそうです。最初は何て失礼なことを…と腹立たしくも感じましたが、そのうち自分でも意識をするようになりました。
受診することは怖かったのですが、今は、主治医の先生や家族、友人にも支えられながら気持ちも楽になりつつあります。もしも、同じ立場の方がおられたなら、早く診断を受けて下さいと伝えたいです。動き出したら光が見えたのですから。



Cさん(奥さん) 周囲の理解があれば、前向きに暮らせませう。

夫は若くて身体は元気なものですから、周囲からの理解が得られずつらい思いをしました。周りからはサボっているように見えたようです。病名を伝えてもまだ理解してもらえない時もあります。
もっと、この病気を知ってもらい、理解をしてもらえたなら、今よりも少し前向きに元気になるって暮らせるだろうと思います。

